

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サクラレバス大阪工場新築	階数	地上3F
建設地	東大阪市加納7丁目	構造	S造
用途地域	工業地域、第1種住居地域	平均居住人員	144 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月 予定	評価の実施日	2019年9月1日
敷地面積	49,414 m ²	作成者	三好裕司
建築面積	2,651 m ²	確認日	2019年9月1日
延床面積	6,424 m ²	確認者	三好裕司

本評価はCASBEE「建築(新築)」を適用し、評価結果を算出しております。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 77% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 77%

④上記+ 77%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
周辺環境へ配慮して、積極的に緑化を行った。 建物ボリュームをセットバックすることで、北側隣地への日影に配慮した。 執務空間には十分なリフレッシュスペースを設け、働きやすい環境となるように計画した。		
Q1 室内環境 執務空間に適した温熱・光環境とするように計画した。 建物内は全面禁煙とした。	Q2 サービス性能 一人当たり適当な執務スペースを確保した。 十分な広さのリフレッシュスペースを設け、落ち着いた雰囲気の内装仕上げとすることで、利用者へのサービス成功の向上を図った。	Q3 室外環境(敷地内) 積極的に緑化を行い、敷地内の温熱環境へ配慮した。
LR1 エネルギー トップライトを設けることで、日中の照明電力の低減を図った。 南側窓面はLow-eガラスとすることで、窓面の熱負荷低減を図った。	LR2 資源・マテリアル 躯体に対して仕上げ材は容易に分別可能とした。	LR3 敷地外環境 敷地内に十分な駐車・駐輪場を確保し、周辺交通環境へ配慮した。 北側隣地への日影に配慮した建物ボリュームとした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0087

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	(仮称)サクラクレパス大阪工場 新本部棟他新築工事					
		建設地	東大阪市加納7丁目					
		用途/区分	事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					4		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.9	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				4.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.1	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称	考慮事項					
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								